

ワイヤーブーケ技術の習得

1. はじめに

私は技能五輪全国大会にフラワー装飾の岐阜県代表選手として出場した。大会では課題に沿って時間内で作品を制作する。大会の課題は4つあり、その中の一つブライダルブーケの課題が「ブライデーを使用しない」であった。ブライデー（ブーケホルダー）を使用しない方法のワイヤーブーケという手法をその時知り興味を持ち、大会後、自身の技術不足を痛感し基本形ができていないと分かった。改めて基本形から応用形までを学ぶこととした。

2. 目的

課題制作にあたり五輪で初めてシュターブブーケに挑戦した。また大会で、他選手の個性的な形状のブーケを見たことで、基本形から応用形まで様々な手法を制作することでさらなる技術の習得を目的とする。

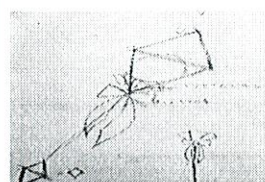
3. 技能五輪全国大会の課題ワイヤーブーケの制作（シュターブブーケ）



シュターブブーケについて

シュターブ（Stab）とは、ドイツ語で杖、棒を指し、王様が持つような王笏をイメージで、長い棒の先端に花を小さくコンパクトにまとめたものである。

デザイン画



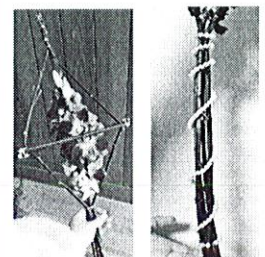
- ・支給花材のサンゴミズキを、活かせるデザインを考えた。
- ・ウエディングの講義でシュターブブーケを知り、興味を持った。
- ・骨格をサンゴミズキ、その中にボール型のワイヤーブーケを入れてデザインした。

デザイン変更前



- ・ハンドルにバラの茎を使用。
→時間が経つと切り口から黒く変色して見栄えが悪い。
→フレーム部分、ハンドル部分すべてサンゴミズキで制作する。
- ・フレームにボールが納められない。
→ボールを半径 14 cm 以下にしないとフレームに花が触れてしまうと分かった。

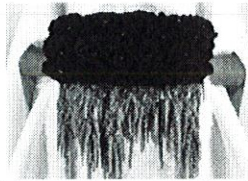
デザイン変更後



- ・フレームの中に納まるブーケのデザイン。
→ボール型を細いオーバル型にする。
- ・フレームと花の間隔が空いていてバランスが悪い。
→花だけでなくユーカリを追加してボリュームを出す。
- ・ハンドルにパールをらせん状に巻き華やかさを出した。
→上下に統一性を持たせるために、フレームの先端部分にもパールを巻いた。

技能五輪全国大会 当日制作 	・バラの首が折れやすく、ワイヤーを刺した場所から折れた。 →予定の使用輪数より多くワイヤリングをして回避した。 ・ハンドル部分とフレーム部分の先端にパールを巻く予定だったが練習の時、一度も制作時間内で制作できなかったが、時間内にすべて巻くことができた。
--	---

4. 応用形マフブーケ



マフブーケについて

元々「マフ」とは両手を差し込むことで暖を取る防寒具のことである。そこから応用し両サイドから手を差し込めるように筒状の形状に花をあしらったブーケをマフブーケと呼ぶ。

1 回目 	・マフ部分のカラーワイヤーが見える。 →マフ部分のワイヤーが隠れるように花を配置する。 ・花の間隔がデザインされていない。 →ガーランド先端からフォーカルエリアのマフ部分の花の間隔を徐々に狭めて、動きを出す。 ・リリオペを垂らしたが主張が強すぎる。 →細かく裂き主張を弱める。 ・少し触れるだけで花が落ちる。 →花にフローラルテープを巻いてから、コイルワイヤーを巻く、またはアクアグルーで花とコイルワイヤーを落ちないように接着する。
2 回目 	・マフ部分に花が多く、ガーランド部分は花が少なくなった。 →マフ部分が密、ガーランド部分が疎になり全体のバランスが悪い。 →密にすることも大切だが、密にしすぎると逆効果である。 ・花嫁のことも考え脱着しやすい形状を考えるべき。 →脱着しやすいように腕にはめる形に変える。
3 回目 	・脱着しやすい腕輪をイメージしたデザイン。 ・リリオペは裂いて入れた。 →主張が弱くなり一体感が出た。 ・正面が重くなりマフ部分のフレームが回りブーケが落ちそうになった。 →マフ部分のフレームの骨格が弱いため、制作前にしっかり腕に合わせる。

5. まとめ

花の形状・質感・強度に合わせたワイヤリング方法を見つけるのに時間がかかった。

同じ花材でもブーケの形状によってワイヤリング方法を変えることも学んだ。

自分は将来フローリストというよりはグリーンマスターを目指そうと考えている、今回の経験を活かせる時は少ないかもしれない。それでも学べて良かったとすごく思える。